



宮 城 県
現代俳句協会
NEWS
2026. 4 No.53



俳句と宇宙

大槻 泰介
(麦)

宇宙に関する最近の知見には目を見張るものがある。探査機による太陽系の星々の実写や宇宙望遠鏡による銀河や星雲の映像には、想像を超えた迫力がある。またビッグバンに始まる宇宙誕生の物語や、宇宙の大部分が未だなお未知の物質やエネルギーで満ちている事など、我々がこれまで聞いたこともなかつた事を最近では中高生も習うのだという。

俳句は句を詠む芸術とも言える。ありふれていては読み手の心に届かない。その意味で、新鮮な感動に満ちた宇宙を俳句に詠んでみたいと思うのは、私だけではないだろう。

ネットで検索してみると、「宇宙」「ブラックホール」「ビッグバン」「超新星爆発」「全球凍結」などの言葉が使われている句が抽出される。しかし新しい言葉を用いて句を作る事は必ずしも簡単ではない。言葉として頭ではわかるが、像として立ち上がってこない。つまり体験に基づく感情やイメージを引き出さないきらいがあるのだ。

月見草はらりと宇宙うらがへる

三橋 鷹女
対馬 康子

マフラーをはずせば首細き宇宙

これらの句では、宇宙という言葉が何を意味するのか説明は難しい。科学的な一義的な説明ができるものではないことは明らかだ。しかしその事が言語化が難しい多層的なイメージを惹起する効果を生む。もし「宇宙」が何を意味するのかすぐ説明できるようなものでは、心に深く響く句とはならないであろう。

有馬朗人はノーベル賞候補にもなった物理学者である。専門は原子核物理学であり、当然宇宙を詠んだ句も多いはずだ。そう思って、最近出版された有馬朗人全句集を紐解いてみた。すると意外にも、宇宙という言葉を使った句は、全五三六九句中、次の一句だけであった(もし見落としがあればお許しください)。

夜の秋語るや宇宙の死の一瞬

有馬 朗人

宇宙には始まりがあり、死がある。その壮大なドラマを、科学者が必死に解き明かそうとしている。それを知る作者ならではの句だと思う。ビッグバン、宇宙の膨張、そして誰もまだ知り得ない宇宙の死。そのような科学的な物語だけではなく、生命という存在にまつわる目くるめく多層的なイメージが瞬時に惹起される。この句の「宇宙」という言葉には、不可知と可知の間に潜む神秘が込められている。

俳句は頭で理解するものではなく、心で感じるものである。新しい科学用語が知識としてのみ読み手に伝わるだけでは、心を動かすインパクトにはならない。そのためには、その言葉に何らかの深層心理に訴えるイメージが共有されていなければならぬ。それは作り手、読み手ともにさまざまであろう。

宇宙を題材とした句においては、句を感じさせる新奇性と、共有可能なイメージの微妙なバランスが、句の味わいを醸し出すのではなからうか。

令和8年度 宮城県現代俳句協会総会

令和8年3月29日、パルシティ仙台（生涯学習支援センター）第2セミナール室において開催。会員数87名（令和8年3月末現在）のうち27名が参加、事業報告・事業計画等について満場一致で承認された。総会終了後、持ち寄り、席題1句ずつの句会を行った。

第1号議案 令和7年度事業報告

- 1 定時総会 令和7年3月29日 パルシティ仙台（生涯学習支援センター）（29名参加）
 - 2 研修会 令和7年6月8日 講演「意識とは何かーてんかん学からの考察ー」（大槻泰介氏）（24名参加）
 - 3 吟行会 令和7年11月30日 地底の森ミュージアム吟行（24名参加）
 - 4 第39回現代俳句東北大会ー秋田大会
講演「俳句はつながり」（対馬康子氏）
 - 5 会報発行（NEWS）51号（5月）、52号（10月）
- 令和7年度収支決算・監査報告 下記の通り

第2号議案 令和8年度事業計画案

- 1 定時総会 令和8年3月29日開催
 - 2 研修会・句会 令和8年5月31日実施予定
 - 3 吟行会 令和8年10月実施予定
 - 4 第40回現代俳句東北大会ー青森大会 令和8年9月27日実施予定
 - 5 会報発行（NEWS）53号（4月）、54号（10月）
- 令和8年度予算案 下記の通り

第63回現代俳句全国大会作品募集

全国大会 令和8年11月29日（日）午後1時より名古屋コンベンションホール
 投句締切 7月31日（金）必着
 応募規定 3句一組・2千円
 何組でも可。ただし、新作未発表作品に限る。
 （郵便払込）加入者名・中村誠一

振込口座番号 008504156366
 受領書のコピーを投句用紙に添付。
 〒446-0061 安城市新田町小山31-20
 中村誠一 現代俳句協会全国大会係

送付先

TEL 090-2265-3478



令和8年度予算案

宮城県現代俳句協会 令和8年度予算案			
自R8年1月1日 至R8年12月31日 (単位:円)			
<収入の部>			
項目	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額	備考
前年度繰越金	437,814	396,638	
地区助成金	163,800	180,000	@2,000×90名=180,000
総会后句会参加費	29,000	30,000	@1,000×30名
吟行会・研修会参加費	48,000	50,000	@1,000×25名、2回開催
雑収入	484	450	預金利息
合計	679,098	657,088	
<支出の部> (単位:円)			
項目	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額	備考
総会費	9,860	14,000	会費費、懇親会補助
会報費	118,514	130,000	年2回発行
負担金	23,765	30,000	東北大会負担金
通信費	36,059	50,000	切手、郵便代、ハガキ
事務費	10,441	10,000	コピー代、インク、コピー用紙、宛名ラベル
吟行会・研修会補助費	45,275	50,000	図書カード、施設利用料、謝礼、懇親会補助
顕彰費	8,546	10,000	席（福善ジュニア大会、大崎俳句大会）
交通費	30,000	30,000	監査、東北大会
予備費	0	333,088	
次年度繰越金	396,638	0	
合計	679,098	657,088	

令和7年度収支決算書

宮城県現代俳句協会 令和7年度収支決算書			
自R7年1月1日 至R7年12月31日 (単位:円)			
<収入の部>			
項目	予算額	決算額	備考
前年度繰越金	437,814	437,814	
地区助成金	180,000	163,800	HA地区助成金、新成人会費 @5,000×4名、 青年会費 @2,000×1名、 青年会費 @2,000×55名、@600×3名
総会后句会参加費	30,000	29,000	@1,000×29名
吟行会・研修会参加費	40,000	48,000	6回研修会 @1,000×24名、 11/30吟行会 @1,000×24名
雑収入	0	484	預金利息
合計	687,814	679,098	
<支出の部> (単位:円)			
項目	予算額	決算額	備考
総会費	14,000	9,860	会費費、懇親会補助
会報費	130,000	118,514	会報51号(5月発行)、52号(10月発行)
負担金	30,000	23,765	東北大会負担金(秋田現代俳句協会)
通信費	50,000	36,059	切手、郵便代、ハガキ
事務費	10,000	10,441	コピー代、インク、コピー用紙、宛名ラベル
吟行会・研修会補助費	50,000	45,275	図書カード、施設利用料、謝礼、懇親会補助
顕彰費	10,000	8,546	席(福善ジュニア大会、大崎俳句大会)
交通費	30,000	30,000	監査、東北大会(秋田)補助
予備費	363,814	0	
次年度繰越金	0	396,638	
合計	687,814	679,098	

上記決算書の各項につき監査した結果、その内容は適正と認めます。

令和7年12月15日
 監査 星 節子
 監査 伊澤 哲雄

総会句会

Ⅱ 「雑詠」及び席題「廊下」Ⅱ

△高得点句△

- 9点 雑巾掛けも習った廊下春の雪
 9点 囀や秘湯の宿の長廊下
 8点 ワックスの香や新学期待つ廊下
 8点 三鬼忌の廊下に満ちて獣臭
 5点 渡り廊下ひらりと消えし春シヨール
 5点 日に三便だけのバス停畦青む
 5点 岩礁に光届いて雲丹歩く
 5点 ゼリー菓子机下に潜めぬ春の虹
 椿落つ戀の途中であるらしい
 先生が先にお辞儀を入学児
 春寒し手術室へと行く廊下
 足腰に感謝し八十路春耕す
 麻縄は銃後の匂ひ春の暮れ
 新作のこけし並ぶよ水温む
 独裁者掃き出せ廊下春日燦
 母に似て物捨てぬくせ夕桜
 飛ばし読む新聞記事や春日燦
 碧き海胸に映して鳥帰る
 朽ちかかる遺構廊下に涅槃西風
 切株や春水じわり滲みをり
 北極星目指してをらむ蠅の道
 花冷えや花と戦争色濃くす
 永き日の雀ついはむ日の欠片
 各々に語り始める梅見かな
 ふらることカナリアはまだ父のもの
 産声をいまかいまかと待つ春廊下
 草木へ耳歌てる西行忌

- 伊澤てつを
 平山 北舟
 小野 豊
 成田 一子
 菊地 美紀
 日下 節子
 本木 朱実
 浅川 芳直
 大久保和子
 大坂 宏子
 大槻 泰介
 大槻 壽夫
 小川真理子
 菊地 幸子
 小関 桂子
 坂下 遊馬
 佐々木和子
 佐藤 みね
 島 松栢
 新藤 綾子
 鈴木 三山
 高橋 薫
 星 節子
 松枝 栄樹
 松本 明子
 丸山千代子
 渡辺誠一郎





シリーズ多羅葉

春虹

土見 敬志郎 (小熊座)

鬼房のここはみちのく霜の声
 霜の夜の底なしに街灯りある
 庭石の寂と光りし寒九かな
 太陽をわが胸板に去年今年
 石打てば炎となりぬ寒の入り
 月光に溶けだしていく崖氷柱
 白壁の豹紋をなす寒夕焼
 大寒の耳に固まる波の音
 寒晴れの渚に光る一羽毛
 海の陽に早や焦がれたる冬牡丹
 淡淡と橋の眠りや春の雪
 春虹や匂ひ出したる桶の水
 庭の木に陽の当たりある春の風邪
 ピカソ忌の景色曲がつてあたりけり
 冬夕焼影絵のやうに人動く

昭和十年五月、塩竈中生。句集『父の景色』『岬の木』。
 馬齢を重ねるたびに、自然への畏敬の思いが強くなった。俳句は孤の文芸であることの再認識、右顧左眄するなどの神の啓示と受け止める。

一 句 一 葉

テーマ：可笑しみ

寄せ鍋やムー大陸がぐらぐらと
 齋藤 伸光 (滝)

題詠「寄せ鍋」から、鍋を太平洋、具をムー大陸に見立て「言葉飛ばし、自由な世界を楽しむのおもしろい」と選者の宇多喜代子氏に評価された、私自身も好きな一句である。浮世の変化は目まぐるしい。震災や戦争など、万物は流転し、宇宙さえも生成滅亡する。そんなことも頭をかすめ、寄せ鍋を囲む平凡な生活をしみじみと思ひ浮かべている昨今である。

手に毛がとおどろく女子の夏試験
 島 松柏 (荒星)

試験監督をしていた頃の話。大学生の彼女は女子高の出身ゆえか試験時に、隣の男子のペンを握る手の甲に、毛が沢山生えているのを見て驚愕したのだった。体毛の有無や量は個人差(または人種・民族差?)が大きく、私の甲にはない。大相撲で、元大関の高安氏の背中のもじりもじりの毛を見る度にこの句を思い出す。

出廻りしのお茶とて旨し子猫居て
 佐々木 和子

七年前に飼った猫を亡くし、淋しい日々を過ごしていた。子猫を連れて野良猫が来て、物置に繁殖して困っていた鼠を一掃してくれたが、突然いなくなってしまう。しばらくして育ち盛りとなった可愛い子猫三匹を連れて戻ってきたのだ。それ以来、毎日遊びに来る子猫たちの姿を見守ることが楽しみとなった。

風の朝落葉と箒の喧嘩四つ
 大槻 壽夫 (素の会)

初冬から暫くは、自宅前の道路の掃き掃除を毎日のようにする必要があり、苦勞しています。この日の朝はやや風が強く、枯葉と箒がなかなか仲良くならず、相撲で言う「喧嘩四つ」の状態となり、いつまでもごみ箱に収まりませんでした。その様子を朝食前に一句にしました。

切子皿肩寄せ合つて丸小茄子

佐々木 清司 (荒星)

故郷の山形県に、夏になると、伝統野菜である小さな丸い茄子が店頭を顔を出すようになる。丸小茄子と呼ばれ、実は丸く一口大の大きさで皮が薄く柔らかい。掲句は小料理屋で朝採りの丸小茄子の浅漬けが切子皿に盛り出された時に詠んだもの。茄子の由来は諸説あるが、郷土に初夏を告げる愛すべき一品である。

浴衣着てこの世の人となつて

佐藤 成之 (小熊座)

幽霊といえば白い死装束と相場が決まっているが、左裕なら死者、右裕なら生者というように人生もそんな単純なものかも知れない。悲しみの表を可笑しみとすれば、道化は自分自身への慰めなのだ。懸命であればあるほど人には滑稽に映るだろう。努力するために人間は生まれ、その結果が幸せであればなおよい。それでいいのだ。

椅子浅く恋の少年青嵐

佐藤 みね (小熊座)

高校時代、友達数人とサイクリングをした。公園のベンチの端で見覚えのある男子が、小さくなって女子に話しかけている。クラスの代表として、堂々と意見をのべる彼の意外な姿に驚いた。「振られるぞ」「いや粘れば大丈夫だ」と外野は勝手な事を言いながら木陰で見ている。興味と羨望の入り交じった青春の一齣でした。

春の星保護者と並ぶ野外風呂

木村 菜智 (小熊座)

震災直後、石巻市の中学校へ新任の教師として赴任した。学校近くの教員住宅に住むことになったが、断水のため、自衛隊の野外風呂に入るようになった。列に並んで待つと「一緒に入る人の中に保護者と生徒がいるということが分かった。顔合わせがまさかのお風呂となり、とても気恥ずかしい思いをした。

一 句 一 葉

テーマ：可笑しみ

戦争を記号で選ぶ受験生

佐藤 詠子 (海原・青山俳句工場05)

中学生の模擬試験(社会科)の採点の仕事をしています。問題に戦争名を問うものも多く「アオオの中から当てはまるものを選べ」と。こんな簡単に戦争は分類されるのかと妙な可笑しさ、そして淋しさを感じます。世界情勢が混沌としている今、教科書通りの認識で受験に臨む律儀な子供たちの未来が平和でありますように。

汝ちゃんがクーラー買い足す今年かな

紺野 みつえ (小熊座)

近年の温暖化で仙台も暑い夏を経験するようになってきた。我が家ではクーラーは一階の義母の部屋と茶の間につけてあったが、二階の寝室にはつけていなかった。夜、寝苦しい日が続き、私は下の茶の間でクーラーをつけて寝るようになった。「もったいない。」と言っていた夫もさすがにつらくなり、二階にもクーラーをつけた次第である。

羚羊のからっぽの顔冬日向

庄子 紅子 (牧)

家の近所の竹藪から一頭の羚羊が現れた。羚羊はびっくりしたのか、そこから動かず、私も立ち竦んでしまった。襲いかかって来るような顔つきでもなく、かと言って気を許すわけにもいかず一歩も動けなかった。何を考えているのか、何も考えていないのか訳のわからない表情をしていたが、暫くして竹藪の中へ帰っていった。

宝くじ外れてました心太

坂下 遊馬 (小熊座)

競馬の馬券は大穴を開けることもあり、射倖心を煽られるが、一攫千金の宝くじには最初から諦めがある。透明感、喉越しの良さ、つるりとした食感の「心太」と「外れた宝くじ」、とにもすつきり感がある。今年は一粒万倍日、大安吉日、天赦日、寅の日が重なる最強の開運日がある。宝くじに当たったら何に使おうか……。

地底の森ミュージアム吟行

令和7年11月30日(日)

場所 地底の森ミュージアム

句会場 太白区中央市民センター

参加者 24名 3句出し、5句の互選

〈高得点句〉

- 11点 頭蓋十個どれも舌なき小六月
- 9点 冬ぬくし地層のひとつとして人類
- 8点 根は残り骨は残らず霜柱
- 6点 着ぶくれて百代の樹根視ておりぬ
- 6点 地底より絶え間無き音寒の水
- 5点 地底の森鹿の長鳴き響きたり
- 5点 神の留守地底の森を真規子ゆく
- 4点 氷河期の森の奥より冬わらび
- 4点 人肌の古木の湿り冬青空
- 4点 古代人の五指みな長し明日は師走
- 冬青空命の記憶足裏より
- 古墳見て散策の背に秋陽差す
- 二万年やはらかに踏み小春かな
- 二万年前の木の根枕に冬眠す
- 彷徨えば地底の森に冬の鹿
- 凍土や龍骨のごと眠る森
- 焚火囲む石器づくりの和み顔
- 鹿仕止む原始の森に継ぐ命
- 地層這ふ走り根の精冬青空
- 朝寒や口籠りたる学芸員
- 地底の森出て師走の空仰ぐ
- 地底の森の暗きを行けば秋の声
- 葉牡丹や時巻き戻すミュージアム
- へその緒のごとき木の根や霜日和

- 渡辺誠一郎
- 高橋 薫
- 菊池 修市
- 菊地 幸子
- 菊地 美紀
- 新藤 綾子
- 嶺岸さとし
- 日下 節子
- 庄子 紅子
- 浅沼真規子
- 伊澤てつを
- 稲村 茂樹
- 大久保和子
- 大坂 宏子
- 大槻 泰介
- 川名まこと
- 小関 桂子
- 小村 寿子
- 坂下 遊馬
- 平山 北舟
- 星 節子
- 丸山千代子
- 丸山みづほ
- 本木 朱実

冬の吟行記

菊地 美紀

十一月三十日十時半、仙台市地下鉄南北線の長町南駅に二十四名が集合。徒歩で西へ五分程の、仙台市富沢遺跡保存館「地底の森ミュージアム」へと向かいました。旧石器時代を中心としたテーマミュージアムは、富沢遺跡から発掘された二万年前の遺跡面を現地で開催しており、環境と人間の営みの跡が一体として保存されたのは、世界でも初めてとの案内書きが有りました。

地下展示室には、広い円形の地面に二万年前の木の根や幹、鹿の糞、焚火の跡などが見つかつたままの状態が保存。照明の明暗を一分ごとに切り替えて雰囲気を高めています。暗い照明の間は壁やスクリーンに映像が映し出され、解説して下さる保存館の方に付いて、皆でゆっくり移動し、ひとめぐりしました。その後スロープと階段をのぼって、一階の詳しい解説コーナーを見、野外の二万年前の風景を復元した、氷河期の森へと進みました。

調査で分かつた地形や植物に基づき、九十種類の植物や氷河期の森のようすが実感できるようにと当時の配置が再現されていました。

富沢のあたりは、針葉樹と広葉樹が交わる湿地林が多く有り、鹿などは越冬のためにやって来るので、人間にとつて狩りの対象となっていたそうです。遺跡の残つた場所は湿地帯であったことが保存の好条件となつたところです。鹿の糞は固まって盛り上がっています。その糞から、食べていたも



の、体の大きさも分かるそうです。焚火跡の周りには石のかけらが多数見つかって居り、石器を作ったり使ったりしたのが分かるとのことでした。

吟行後、句会会場の太白区中央市民センター中会議室へ移動。一人三句の投句で七十二句。

選句、合評の中で選句の理由などを発表、語り合い、改めて吟行という同じ対象を詠む、さまざまな感性を感じる時間が嬉しくありがたいことでした。

吟行の地も句会会場も仙台市地下鉄の沿線。開発がますます進んでいる地域ですが、現在の景と旧石器時代の景が自然体で共に在るのは貴重な事です。機会があれば季節毎に訪ねてみたいと思いました。十一月末日、穏やかな一日でした。

■慶祝

土見敬志郎（小熊座） 第23回鬚T A T E G A M I 俳句賞（『岬の木』）
川名まこと（小熊座・いつき組） 第50回宮城県俳句賞本賞
小田桐妙女（陸・We） 第14回陸新人賞

第5回ハポン支倉常長俳句賞

- ▽大 賞 切れ切れに霧笛の届く支倉忌 丸山みづほ
- ▽多賀城市長賞 月光を孕む帆出でし月浦 川名まこと
- ▽みちのく伊達政宗歴史館賞、麦賞 星飛べり阿吽の龍のガレオン船 坂下 遊馬



第39回現代俳句東北大会（秋田） 入賞作品

令和7年9月27日 協働大町ビル（秋田市）

（宮城県選者 渡辺誠一郎・成田一子・坂下遊馬・鈴木三山・小田島渚）

- ▽現代俳句協会長賞 陽炎の出口で母の手を放す 日下 節子
- ▽秀 逸 賞 片蔭の一会の椅子を分け合いぬ 星 節子
- ▽佳 作 賞 夏の月骨美しき哺乳類 宮崎 哲
- ▽筑紫 磐井特選 紫蘇を揉む地球の角が取りたくて 嶺岸さとし
- ▽星野 高士特選 夏の月骨美しき哺乳類 宮崎 哲
- ▽大瀬 響史特選 乗客は吾のみ海市の停留所 高橋 彩子
- ▽松宮 梗子特選 紫蘇を揉む地球の角が取りたくて 嶺岸さとし
- ▽名久井清流特選 声までも汗を垂らして人力車 兵藤 康行
- ▽及川真梨子特選 夏の月骨美しき哺乳類 宮崎 哲
- ▽坂下 遊馬特選 声までも汗を垂らして人力車 兵藤 康行
- ▽佐竹 伸一特選 陽炎の出口で母の手を放す 日下 節子
- ▽片倉 弓特選 陽炎の出口で母の手を放す 日下 節子
- 陽炎の出口で母の手を放す 日下 節子
- 陽炎の出口で母の手を放す 日下 節子
- 陽炎の出口で母の手を放す 日下 節子

第62回現代俳句全国大会入選作品

令和7年11月3日 東天紅上野店（東京上野）

- ▽秀 逸 賞 夏雲やガザに数多のはだしのゲン 丸山みづほ
- ▽佳 作 入 賞 戦争を記号で選ぶ受験生 佐藤 詠子
- ▽伊藤政美特選3位 雑草の根を深くする炎暑かな 嶺岸さとし
- ▽山本敏伴特選1位 戦争を記号で選ぶ受験生 佐藤 詠子
- ▽川村智香子特選 夏雲やガザに数多のはだしのゲン 丸山みづほ
- ▽酒井 弘司特選 戦争を記号で選ぶ受験生 佐藤 詠子
- ▽高橋 和彌特選 夏雲やガザに数多のはだしのゲン 丸山みづほ
- ▽高橋 健文特選 夏雲やガザに数多のはだしのゲン 丸山みづほ
- ▽谷口 慎也特選 戦争を記号で選ぶ受験生 佐藤 詠子

ようこそ、現俳へ。

新会員紹介 (令和8年4月現在)

岩井 あさ (小熊座)

巻石に寄せくる波や鯛雲
たまご苺いよいよ森は童話めく
人参の人参色の無敵さよ

体のあちこちの不調でやりたいことができずにいました。カルチャーの見学で、高野ムツオ先生の講座を拝聴。話がとても面白く、ここに通いたいと思ったのが、私の俳句との出会いです。入会の順番待ちの時、渡辺誠一郎先生の自由で楽しい教室に誘っていただき、ゼロからの俳句作りが始まりました。すばらしい先生方や楽しい仲間に出会えたことが私の俳句入門のきっかけです。今、俳句修行中です。

■夏季研修会のご案内

日時 令和8年5月31日(日) 午後1時30分(受付15分)
場所 パルシテイ仙台(生涯学習支援センター) 第2セミナー室
シンポジウム「俳句の現在地」(仮)
パネリスト 成田一子、浅川芳直、小田島渚
司会 渡辺誠一郎
参加費 (シンポジウム後、席題1句出し句会)
1千円 懇親会費 4千円
お申込みは5月15日まで坂下遊馬宛。
〒989-2351 宮城県巨理郡巨理町北新町22-13
坂下遊馬 方
Tel 090-2982-7230
メールアドレス rakrakuy88@yahoo.co.jp

※協会員外も参加可能です。

編集室から

◆当会の会員数は減少傾向にあるものの、活動はむしろ活発である。少人数ゆえに熱が伝わりやすい側面もある。短歌では定着している批評会や読書会が、若手を中心に俳句にも広がりを見せている。大勢で楽しむエンターテインメント型から、一冊の句集を掘り下げ、思考を共有するアカデミックな志向へと移りつつあるように感じる。五月予定の研修会では、会長の提案により、三名のパネリストが自選句をもとに作品観や創作の現在を語る。開催要項は上記記載。俳句の「いま」を多角的に捉える場としたい。

(小田島 渚)

photo俳句

じゃぶじゃぶと洗ふ暖簾や木の芽風 松枝 栄樹

(表紙の写真)石巻市の旧観慶丸商店

■謹悼

仙 とよえ (俳句人連盟) 令和7年10月17日逝去(87歳)
関根 かな (小熊座) 令和8年1月1日逝去(56歳)

発行所 宮城県現代俳句協会 令和8年4月25日発行
発行人 渡辺誠一郎 編集部 坂下遊馬、小田島渚
事務局 〒989-2351 宮城県巨理郡巨理町北新町22-13
坂下遊馬 方
電話 090-2982-7230
メールアドレス miyagikengh@gmail.com